

□海外文献紹介□

エリスロマイシン(EM)による糖尿病性胃排泄遅延の改善

Improvement of gastric emptying in diabetic gastroparesis by erythromycin: Janssens, *et al* (N Engl J Med 322: 1028-1031, 1990)

最近の幾つかの研究は、EM に消化管ホルモンであるモチリン類似の作用があることを明らかにしている。EM など 14 種類のマクロライド系薬剤は胃前庭部・近位十二指腸に多数あるモチリン受容体に結合してアゴニスト作用を呈するとされている。

糖尿病患者では diabetic gastroparesis による胃内容物停滞が、血糖コントロールを困難にする一因となっている。著者らは胃排出遅延が確認されたインスリン依存性糖尿病

患者 10 例について、EM の胃排出に及ぼす効果を調べた。胃排出は^{99m}Tc 標識固形食と¹¹¹In 標識水の二重ラベル食餌を与え、それぞれの胃内停滞率の推移をシンチグラムにより計測して、二重盲検クロスオーバー方式により検討した。また対照として、性・年齢が一致する健常者 10 例を調べた。

EM 200 mg 静注により、糖尿病患者の食事 120 分後胃内停滞率は、固形食においてはブラシーボ静注時の $63 \pm 9\%$ から $4 \pm 1\%$ に(健常者; $9 \pm 3\%$)、液体においては $32 \pm 4\%$ から $9 \pm 3\%$ に(健常者; $4 \pm 1\%$)、いずれも健常者と同等までに改善した($p < 0.0005$)。EM 250 mg を毎日 3 回 4 週にわたり経口投与後の糖尿病患者の 120 分後胃内停滞率は、それぞれ $28 \pm 7\%$ 、 $20 \pm 6\%$ で、静注時

の効果には及ばないものの、有意の改善を示した($p < 0.05$)。

胃停滞による症状があった 4 例中の 1 例では症状が軽快し、経管栄養しかできなかった 2 例で経口食事が可能になった。3 例が低血糖発作が減少したと報告し、10 例の平均 HbA1c は 8.0% から 7.6% と低下した。

モチリンの血中濃度は食事後低下するとされ、それが胃排出を制御している様子はない。しかし、作用機序は別として、EM が糖尿病性の胃排出遅延の治療に有用である可能性が示された。

【訳者コメント】 EM のモチリン様作用の発見者は伊藤漸氏である。(関東通信病院消化器内科

松田直人 抄)